

11月29日 Workshop1 Group2

最初に、吉田先生から国際教育協力に関するレクチャーが行われました。まず、教育開発援助の種類について、歴史的変遷を概観しました。1960年代から1990年代まではプロジェクトタイプの援助が多く実施されてきましたが、1980年代ごろには多くの途上国が経済危機に瀕し、IMFや世界銀行が構造調整による介入を試みしました。同時期、支援の形態はプロジェクトからプログラムアプローチへとシフトし、政府だけでなく地域やNGO、プライベートセクターとの協働が行われたり、成果重視型マネジメント (Result-Based Management) が採用されたりしました。

次に、プロジェクトやプログラムの典型的なアプローチについての説明がありました。アプローチは大きく、トップダウン型とボトムアップ型に分けられます。前者は政府や教育省などの主導によって行われ、後者は教師教育機関や学校など、現場主導で行われる形をとります。

講義の後は、グループディスカッションが行われました。ディスカッションでは「私塾に通う子供を公設民営の教育センターに通わせる」というテーマで研修員が作成した PDM (Project Design Matrix) をたたき台に、研修員同士の質疑応答や指摘が行われました。

